四條畷市議会議員（無所属）　一級建築士
作成：2017.08.21
市政報告09月号

長畑ひろのり News vol.118

(C)2013 Kohama Studio

防災協力農地登録制度を開始

情報が遅れましたが、四條畷市と田尻町において、今年の４月１日より防災協力農地制度が開始されました。この「防災協力農地登録制度」については、大阪府農業会議が発行している大阪農業時報（６月１日第７７８号）の記事より以下に引用します。

「防災協力農地登録制度」とは、災害時における住民の安全確保や復旧活動の円滑化を図る用地を確保するため、避難空間、仮説住宅建設用地、復旧用資材置き場として活用できる農地を、農家の協力により、あらかじめ登録する制度。

防災協力農地へ登録があった場合、その農地には左画像の案内標識を設置しています。ちなみに本市で登録があったのは、８月１５日現在で１件です。

また、府内でこの制度を導入されているのは、寝屋川市、守口市、貝塚市、堺市、高石市、大東市、そして今回の本市と田尻町を加えた合計８自治体だけと、まだまだ少ないのが実情です。

ところで、四條畷市議会より四條畷市農業委員会委員として推薦され２年と数ヶ月務めてきましたが、７月１９日の任期終了で農業委員としての任を解かれました。

平成２７年の農業委員会法改正により、今後は市議会より農業委員会への出向は無くなりましたので、貴重な経験をさせて頂きました。この経験を生かし、今後も本市の農業発展に全力で取り組みますので、宜しくお願いします。

※農業委員会は、農地法に基づく売買・貸借の許可、農地転用案件への意見具申、遊休農地の調査・指導などを中心に農地に関する事務を執行する行政委員会として市町村に設置されています。（農水省のホームページより）

６月定例議会における一般質問

先月号では５項目行った質問より１項目を報告し、今月号では３項目を報告させて頂きます。残りは来月号の予定です。

・電気自動車について

以前、本市には電気自動車があったのですが、知らない間に無くなっていました。そこで、今回は次の質問をしました。

【長畑質問】電気自動車を導入した意義と経緯、現状は。

【行政答弁】大阪府、大阪市、日産自動車株式会社の共同事業とした日産リーフで節電アクションプログラム並びに大阪府の電力ピークシフト対策に賛同し、本市として環境面から先進的に取り組む姿勢を示し、ＣＯ２の削減に寄与できるとの考えから導入。同時に、北別館東側に緊急時に電気自動車から電力を供給できる下画像の充電機器を整備。電気自動車の導入期間は平成２５年１月～２８年１１月末迄。当初の８か月間は無償、以降はリース契約を締結。その後、日々の走行により一定の効果を果たしたとの認識で契約延長は行わなかった。今後は啓発から実践の段階に本格的に移行していく。

【長畑質問】啓発が一定の効果を果たしたとは思えない。今後、実践の段階へ本格的に移行していくのであれば、電気自動車の契約延長は必要だったと思うが。

【行政答弁】電気自動車による啓発は一旦終了したが、ＣＯ２削減への段階的な取り組みの継続は必要と考える。今後は市役所はもとより市域全体に及ぶ環境意識の浸透をめざす。

【長畑質問】設置してから一度も利用されていない北別館東側に設置されている充電機器は、どう活用していくのか。

【行政答弁】この充電機器は、北別館１階食事室を災害時に多用途に活用すべく電気自動車からの電気供給を受ける仕組みであり、今後は有事の市役所機能の継続を補完する設備の一つとして活用する。

【長畑要望】庁舎は既に有事の際、ガスコージュネレーションにより電力をまかなえる仕様になっている（空調･照明･コンセントの一部を継続使用が可能）。そこで、充電機器が有効活用できる場所への移設を要望する。

毎月発行している“長畑ひろのり News”を、約半年ごとに送っています。
送付の必要な方は、送付先を FAX もしくは e-mail にてお知らせ下さい。
長畑ひろのり事務所　FAX 072-877-1280
e-mail　sky@nagahata.jp
http://nagahata.jp

Instagram　mixi　twitter　facebook　ココログ

・忍ヶ丘駅前東側ロータリーの噴水について

平成２７年９月定例議会において「忍ヶ丘駅前東側ロータリーの噴水に変わるモニュメントについて」と題し、その中で噴水のランニングコストについて質問しました。（詳細は長畑ひろのり News.097 号）

その時の答弁で明らかになったのは、噴水本体については建設費用が約５，４００万円かかっており、現在の管理費用は、機器設備保守点検業務委託料として年間約４０万円、電気代が年間１８万円、耐用年数約１５年のポンプの入れ替え費用が約１００万円。ポンプの費用を耐用年数で割ると年間約６万７千円で、以上を合計すれば、ランニングコストに年間約６４万円が必要とのことでした。そこで、今回は次の質問をしました。

【長畑質問】平成８年９月５日竣工ですので、年間経費だけを考えても２１年かける６４万円で１３，４４０，０００円もかかっており、これから先も延々とかかっていく経費に見合うだけの効果があるのか。

【行政答弁】経費は噴水機能がポンプの老朽化に伴い、昨年２月から稼働を停止している状況から、維持管理費は電気基本料金のみの年間約４万円程度になっている。このような現況下であるが、駅前広場のシンボルとして市民の皆様に浸透が図られており、長く慣れ親しんだ駅前広場の空間構成に、一定の役割を果たしていると認識している。

【長畑質問】ランニングコストが年間６４万円から４万円になったことに喜んで良いのか、噴水機能が停止していることに悲しんで良いのか、水の出ない噴水に考える気力も失せてくるが、今後、市として噴水はどうしていく予定か。

【行政答弁】モニュメントとして一定の役割を果たしており、現状のままで今後も存続させていく。

【長畑要望】平成２７年１２月定例議会における一般質問で、忍ヶ丘駅前にタイムズへ貸している土地に複層階の建物を建て、１階は今と同じコインパーキングで良いが上層階に図書館を提案した。（詳細は長畑ひろのり News.101 号）それらも含め、また、次の質問の大きなサンタ（本市観光大使についての一部）の件も含め、本市で唯一の顔である忍ヶ丘駅前について庁内で議論して頂くことを要望する。

・本市観光大使について

左の項目と同様、平成２７年９月定例議会において噴水に変わるモニュメントとして、本市観光大使の谷口智則さんが所持している大きなサンタ（下記画像）を立てて欲しいと要望しました。（詳細は長畑ひろのり News.097 号）

その時の答弁は「よそから来られるお客様の視点も大事で、そういう観点からも重要」と述べられながらも何ら動きがなかったのです。そこで、今回は次の質問をしました。後半部分については、故河島英五さんの質問となっています。

【長畑質問】イオンがオープンし、本市に来られる方も確実に増えている中、サンタの提案は検討して頂いているのか。

【行政答弁】これまでの観光施策の展開にあたり、ソフト事業の実施に傾注してきたため、ハード整備を伴う事業は検討を行ってこなかった状況。提案の像に際しては、総合的な観光施策の推進にあたり、今年度内に取りまとめる改訂産業振興ビジョンの視点の１つに置く、市域外から人を呼び込む文化、観光振興のなか、基本的な考え方を整理していく。

※以前、市民総合センター内に置かれていた大きなサンタ

【長畑要望】全体としての整備が無理であるなら、まずは費用のかからない部分的な整備が必要。サンタについては噴水を撤去して立てるより噴水北側花壇の一部に設置して安価に、また、谷口智則さんのオブジェも市内各所に置かれているが、歴史民俗資料館にも置いて欲しいと要望する。

【長畑質問】歌手であり本市在住の河島亜奈睦さんが、音楽活動を通じて本市でも多くのイベントに協力をして頂いたり、本市の PR を外部に向かって発信して頂いている。そういう点からすれば立派な本市観光大使と言えるのではないか。しかし、本市からすれば簡単に本市観光大使として任命するのは難しい、それも理解はする。そうであるならば、本市在住であった河島亜奈睦さんの父親、故河島英五さんに対して本市観光大使的なこと、できれば文化芸術などで何か肩書きを考えて頂けないか。

【行政答弁】議員提案の故河島英五氏に対する肩書については、これまでの功績、ご家族の現状の活躍を踏まえれば、市のアピール、認知度向上に繋がるものと理解する。この認識をもとに、平成３２年７月に迎える市制施行５０周年を機に何らかの方策を検討したい。

【長畑意見】１９７０年大阪万博の年に市になっているので、５０年後は２０２０年東京オリンピックで日本中が盛り上がっている時。私としては名誉観光大使が良いと思うが、まだ３年あるので素晴らしい案を期待して待ちたい。